

前夜

11/8 (金)

18:00-19:00

プレングレス開催!

オープン・ダイアログとリフレクティング・
プロセス ～ファシリテーターとしての看護師～

末安民生

(岩手医科大学看護学部 教授 /
日本精神科看護協会 相談役)

第26回 日本精神科看護専門学術集会 in 青森

2019.11.9 sat ▶ 11.10 sun リンクステーションホール青森

※ 学術講演 ※

認知症高齢者の医療上の意思決定支援 井藤佳恵 (東京都立松沢病院 精神科医長)

※ パネルディスカッション ※

- ① 子どもの健やかな成長を支える看護を考える ～母子・父子・家庭を包括的にケアする～
コーディネーター / 草地仁史 (日本精神科看護協会)
- ② 精神科における家族支援の意義 ～看護者の実践を通して考える～
コーディネーター / 吉川隆博 (東海大学医学部看護学科 / 日本精神科看護協会 会長)
- ③ 高齢精神障がい者のケアと合併症予防
コーディネーター / 松永智香 (JA 高知病院 / 日本精神科看護協会 教育認定委員)

※ テーマセッション ※

- 意思決定支援 ● 看取り

会場：リンクステーションホール青森 (青森市文化会館：青森市堤町1丁目4番1号)

お申し込み先：東武トップツアーズ(株) 青森支店 (担当：大橋・横田)

TEL 017-723-3671 FAX 017-722-1561

お問い合わせ先：一般社団法人日本精神科看護協会

TEL 03-5796-7033 www.jpna.jp

主催：一般社団法人日本精神科看護協会、一般社団法人日本精神科看護協会青森県支部

後援：青森県 / 青森市 / 公益社団法人日本精神科病院協会青森県支部

青森県精神科病院・診療所協会 / 公益社団法人青森県看護協会

一般社団法人青森県作業療法士会 / 青森県精神保健福祉士協会

詳細は日本精神科看護学術集会専用ホームページをご覧ください

▶ <http://jpna-gakujutsu.jp>



第26回 日本精神科看護専門学術集会 in 青森

11/8 (金) 18:00-19:00 プレコンgres

オープン・ダイアログとリフレクティング・プロセス～ファシリテーターとしての看護師～
末安民生 (岩手医科大学看護学部 教授 / 日本精神科看護協会 相談役)

プログラム

11/9
(土)

9:15
受付

9:50
開会式

10:00～11:45
学術講演
認知症高齢者の医療上の意思決定支援

12:00～13:00
昼食
ランチョンセミナー

13:10～17:00
パネルディスカッション
テーマセッション
一般演題 A・B

11/10
(日)

9:15
受付

9:30～11:45
パネルディスカッション
テーマセッション
一般演題 A・B

12:00～13:00
昼食
ランチョンセミナー

13:10～15:20
パネルディスカッション
一般演題 A・B

※プログラムや
時間等は一部
変更することが
あります

学術講演

認知症高齢者の医療上の意思決定支援

講師 / 井藤佳恵 (東京都立松沢病院 精神科医長)

「認知症がなかったらこんなことをしなかったはず」。そうだったとしても、近時記憶の障害が進行し、今この時だけを生きるその人にとって、今の自分以外に「本当の自分」がいるのだろうか。今、その人が表示する意思に、たとえ客観的な合理性がみつけれなかったとして、それを退けてよい根拠はあるのだろうか。時間が進み、身体の状態が変化し、生のフェーズが変わっていく。そのなかで、人の思いは変化し、それを反映して医療方針は変わっていくべきものである。認知症高齢者の終末期医療に関する意思決定支援を考える時、もっとも難しい過程のひとつは、今が終末期であるという認識を、かかわる者すべてが共有することなのではないかと感じる。20世紀を通じて医学は人間の寿命の延長に寄与し、その過程で、命がいつか尽きるという感覚も、私たちの生活の実感から失われたのかもしれない。当初あらゆる延命処置を望んでいた家族が、2か月ほどの経過で、終わりが近いことを曖昧ながら受け入れていくことを経験する。本人にとっても残される者にとっても、二度とやり直すことのできない看取りの過程で、かかわるすべての者の相互的な理解が成立していくことの大切さを思う。

平成5年 東京大学文学部フランス語フランス文学科卒業。平成5年～6年 民間企業勤務。
平成14年 東北大学医学部卒業、東北大学病院精神科入局。平成19年 東北大学病院精神科特任助手、緩和ケアチーム専任。
平成20年 東北大学病院精神科助教、病棟医長。平成22年 東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と介護予防研究チーム 研究員。平成27年 東京都立松沢病院精神科医長。



11/8 (金) 18:00-19:00 プレコンgres

オープン・ダイアログとリフレクティング・プロセス～ファシリテーターとしての看護師～ 末安民生 (岩手医科大学看護学部 教授 / 日本精神科看護協会 相談役)

「オープン・ダイアログ」は、フィンランドの西ラップランド地域で1980年代から実践されている地域精神医療システムの1つです。依頼者から連絡が入ると、基本的に24時間以内に多職種チームが出向きます。昼夜を問わず当事者や家族、関係者、依頼者などを含めて「開かれた対話」をします。この手法により、入院が減り、薬物療法も最小限度にとどめながら急性期を脱し、地域で生活を続けることができる人が増えていきました。「開かれた対話」とは何かを紹介いたします。

パネルディスカッション

① 子どもの健やかな成長を支える看護を考える
～母子・父子・家庭を包括的にケアする～
コーディネーター / 草地仁史 (一般社団法人日本精神科看護協会)

今日の社会においては、子育てについて誰にも相談できず、地域の中で孤立し、子育てに悩んでいる人たちも少なくありません。そのような人たちに支援の手が差し伸べられなければ、子どもの命が危ぶまれる事態にもつながりかねません。子どもの健やかな成長に向けた支援と家族のメンタルヘルスについて参加者の皆様と一緒に考えます。そして児童虐待予防支援で関心が高まっている「パパカード」をご紹介します。

② 精神科における家族支援の意義
～看護師の実践を通して考える～
コーディネーター / 吉川隆博 (東海大学医学部看護学科 / 日本精神科看護協会 会長)

患者さんの疾病回復、退院と地域生活の維持、再発予防などを考えるときに、「家族」を含めた支援の重要性を痛感することが少なくありません。家族は精神疾患がある患者を支えながら、一緒に苦しんだり、誰にも相談できず地域で孤立したりすることもあります。そこで今回は、患者と家族が安心して暮らせる地域づくりをめざして、精神科における家族支援の意義および家族支援の視点などについて、実践者らと一緒に考えていきます。

③ 高齢精神障がい者のケアと合併症予防
コーディネーター / 松永智香 (JA高知病院 / 日本精神科看護協会 教育認定委員)

2017年における日本の平均寿命は、男性が81.09歳、女性が87.26歳と過去最高になりました。精神障害をもつ高齢の方が「いつもの場所で」「いつものように」「その人らしく」暮らしていくためには身体合併症の予防や早期発見と早期介入が重要となります。精神科看護領域で働く看護師がもつべき知識や技術、入院中にできる必要な支援、地域や在宅でできる看護サービスの提供について一緒に考える機会にしましょう。

● 参加費 (プレコンgres参加費含む)

会員 事前申込: 13,200円 (税込) / 当日申込: 15,400円 (税込)

非会員 事前申込: 24,200円 (税込) / 当日申込: 26,400円 (税込)

※プレコンgresのみ参加 事前申込・当日申込ともに: 会員 1,100円 (税込) 非会員 2,200円 (税込)

● お申し込み方法

① インターネットの場合

学術集会専用ホームページの「第26回日本精神科看護専門学術集会 (青森県) Web申込」からお申し込みいただけます。

② FAXの場合

パンフレット「第26回日本精神科看護専門学術集会 (青森県) ご案内」の参加申込書に必要事項を記入し、下記のお申し込み先へ送信してください。参加申込書は、学術集会専用ホームページからダウンロードできます。

● お申し込み先

東武トップツアーズ青森支店「第26回日本精神科看護専門学術集会 (青森県)」係
TEL: 017-723-3671 FAX: 017-722-1561 担当: 大橋・横田

事前申込受付
2019年
8/1 (木) ~
10/7 (月)

※上記期間後は
当日申込の参加費となります

詳細は専用ホームページで

www.jpna-gakujutsu.jp

主要プログラムの具体的な内容やその他たくさんの企画、アクセスマップを含む基本情報など、日本精神科看護学術集会専用ホームページで詳しく紹介しています。

※お電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、ご了承ください
※会員とは、一般社団法人日本精神科看護協会の会員をさします